

【結語】 カプサイシン感受性知覚神経は、胃内 pH によるガストリン分泌調節機構に関与していると考えられた。

8. 全トランスレチノイン酸 (RA) を投与した Jcl: ICR マウスから得られた胎児の口蓋ヒダについて

堀江成光 (解剖学第一)

催奇形因子による口蓋ヒダ異常の意義について基礎的なデータを得る目的で、RA の胎生期投与によりマウス胎児に誘発される口蓋ヒダ異常の用量反応関係と時期特異性を検索した。Jcl: ICR マウスの妊娠10.5、11.5または12.5日 (陰栓発見=0日) に RA を 0.08~80 mg/kg 強制経口投与し、18.5日に胎児の口蓋ヒダ異常を観察した。20 mg/kg 以上で口蓋裂が誘発された。口蓋裂のある胎児はヒダ観察から除いた。溶媒投与対照群で稀な短小、癒合、交差などをヒダ異常と定義した。各処置日とも、口蓋ヒダ異常の頻度は用量に応じて高まった。ヒダ8の欠如は対照群でもよく見られたが、用量に応じて増加した。ヒダ4より後方の過剰ヒダの頻度は11.5または12.5日投与群で用量に応じて増加したが、10.5日投与群ではこのような増加は見られなかった。これらの所見から、正常範囲の変異と見られるヒダ8の欠如も催奇形性検出指標として意義があることが明らかとなった。